


# CCC NCC O9

 the center  
for creative  
communications

## New Creators Competition 09

### 展覧会企画公募 EXHIBITION

若手の展覧会企画者を対象としたCCC(静岡市クリエイター支援センター)の支援プログラムである「New Creators Competition 2009 展覧会企画公募」において、総数10企画のご応募をいただきました。厳正なる選考の結果、2名の企画者による展覧会企画が選出されました。そこで、CCCでは、キュレーション部門とセルフプロデュース部門、2組による入選企画展を開催致します。キュレーター、甲元賢治の「Did You Remember What You Are Going to Do Tomorrow?」は、フリップクロックをモチーフに、機械と人間の時間意識の関係を表現した映像インスタレーションの企画。そして、セルフプロデュース、瀧澤潔の「Tsunagaru」は、学校という場の記憶から生まれる、内と外つながり(結)をテーマにした、光と空間を演出するインスタレーションの企画です。これら2組の若いキュレーターとアーティストが表現する、現代の感性をぜひご体感ください。

#### **PART1** キュレーション部門入選企画/企画者:甲元賢治

「Did You Remember What You Are Going to Do Tomorrow?」

会期:2009年1月16日(金)ー2月14日(土)(日・祝日休み)

#### **PART2** セルフプロデュース部門入選企画/アーティスト:瀧澤 潔

「Tsunagaru」

会期:2009年2月21日(土)ー3月21日(土)(日・祝日休み)

入場料:無料 協力:NPOしずおかコンテンツバレー推進コンソーシアム

#### 総評 しりあがり寿(漫画家) NCC '09選考委員長

今回は、第一回目に関わらず様々な分野から新鮮な提案が数々集まりました。元小学校というロケーションを十分に配慮した作品や、世界につながる問題意識を背景にした記録や、素材と場のマッチングに挑む試みなど、それぞれのアーティストが各人の技術や主張を存分にNCCぶつけた作品のおかげで審査は難しいけれど、楽しいものになりました。今回のNCCがそんなアーティストたちにとって、また生まれたばかりのCCCにとって大きなジャンプになるよう、心から願っています。

#### ■本展についてのお問い合わせ

静岡市クリエイター支援センター CCC(The Center for Creative Communications)  
〒420-0853 静岡市葵区追手町4番16号 tel:054-205-4750 e-mail:info@c-c-c.or.jp website: http://www.c-c-c.or.jp/

EXHIBITION PART1

キュレーション部門入選企画

「Did You Remember What You Are Going to Do Tomorrow?」

会期:2009年1月16日(金)ー2月14日(土)(日・祝日休み)  
開場時間:10:00-20:30  
会場:静岡市クリエイター支援センター2Fギャラリー  
主催:静岡市クリエイター支援センター  
入場料:無料  
協力:NPOしずおかコンテンツバレー推進コンソーシアム

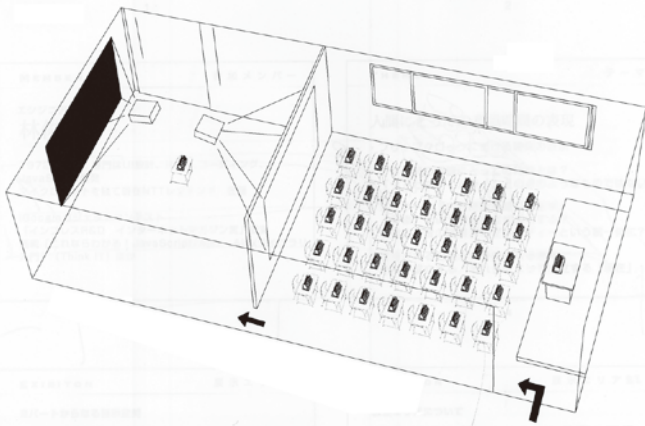
□企画者:甲元賢治(こうもとけんじ)

1975年生まれ。現在、ソネットエンタテイメント、東京大学大学院情報学環修士課程在籍。アルスエレクトロニカ2000、medi@terra(2004)、「wordsfall/wordsfloat」ギャラリー-site(2006)など。参加アーティスト:甲元賢治、阿部卓也 協力:林俊之

本作の主題は、「時間」や「記憶」が人間の意識の中でどのような現象として立ち現れているのかを問うこと、特にそれを機械式の時計が刻む「標準化された時間」や、技術が可能にする「記録」の問題と対比しながら問うことである。「記憶」を主題とする本展示が、壁面を再塗装されホワイト・キューブ的な空間として改装されながらも、かつて学校であった面影をいまま色濃く残すCCCという「場」に積層した「記憶」や「歴史性」を再現動化するような装置となれば幸いである。(企画:甲元賢治)

□講評/五十嵐太郎(建築家、建築史家)\_NCC '09選考委員

甲元賢治氏の提案は、会場が校舎であることを意識し、フリップクロックをのせる台として整列された机をインсталレーションに用い、誰もが経験している見慣れた場所の異化効果を狙っているところが興味深く思われた。そもそも教室は、全員が同時に正面を向くことが強制される独特な空間である。どこでも同じようにつくられる学校は、均質であるがゆえに、それぞれに思い出が喚起される集団的な記憶の場所であり、実際にここを通った人にとっては、さらに固有の懐かしさを伴う。限られた予算のなかで展示を行う場合、小学校だったという来歴をもつ展示会場の性質を積極的に味方につけることは、有効な戦略である。展示計画も、簡単ではあるが、図面が描かれており、具体的な空間のイメージが提示されている。これによれば、明るい教室と、その奥にある暗室の対比がもたらす、鑑賞者の体験の変化が期待される。またアルス・エレクトロニカやギャラリー-siteなど、過去の展示作品の実績をみても、今回のプロジェクトは十分に実現できる力量をもってることがうかがえる。



EXHIBITION PART2

セルフプロデュース部門入選企画

「Tsunagaru」

会期:2009年2月21日(土)ー3月21日(土)(日・祝日休み)  
開場時間:10:00-20:30  
会場:静岡市クリエイター支援センター 3F展示室  
主催:静岡市クリエイター支援センター  
入場料:無料  
協力:NPOしずおかコンテンツバレー推進コンソーシアム  
関連企画:アーティストトーク(無料/要予約)  
2月21日(土) 13:00~14:00 CCC 3F展示室 参加アーティスト:瀧澤 潔

□アーティスト:瀧澤 潔(たきざわきよし) www.kiyoshitakizawa.com

1978年生まれ。代官山インсталレーション'07 esquire賞(2007)、第9回SICFスパイラルインディペンデントクリエイターズフェスティバルスパイラル奨励賞受賞(2008)など。

会場からインスピレーションを受け自然光のみで会場を構成しようと考えた。会場には大きなガラス窓がありそこから入る優しい光を意識化したい。この場所に入り込む光の流れや風の動き、見えない力の動きをテグスという素材でインсталレーションに挑む。特にその見えない力とは学校という記憶の場所がかもし出す力。その場所が持つ力を作品設置を通して引き出す。作品は観客を包み込むことで空間に関係性を生み出す。(企画:瀧澤 潔)



□講評/五十嵐太郎(建築家、建築史家)\_NCC '09選考委員

瀧澤氏の提案は、展示会場がもともと学校であることを生かそうとしていることが評価される。すべてが同じ素材で囲まれていながら、窓面からの光がほのかに差し込むことで、偏差のあるインテリア・ランドスケープが生まれる。そしてシンプルなアイデアなので、誰もが直感的に手法を理解し、変貌した教室の空間を体験できる。テグスによっておおわれた教室は、「つながる」というコンセプトを表現するものになるかどうかは確信できなかったが、それ自体がもつ空間の強度は期待できると思われた。また瀧澤案を選んだのは、たまたま代官山インсталレーション07展を見ていたことも大きく影響している(このときは同展に入選した若手建築家の作品を見るために訪れていた)。代官山アドレスに設置された彼のhanger wallは、1600本のハンガーによって、よく知っている商業施設に新しい皮膜一枚付け加えることで、空間を劇的に変える印象的な作品だった。今回、この作品を制作したアーティストの名前を知ったが、確かな空間のスケール感をもっており、tsunagaruも安心して依頼できると判断した。